

1日コース 那智勝浦町〜太地町

熊野灘の潮風を感じる町歩きプラン

「生まぐろの町」那智勝浦では、魚市場で競りを。鯨の町「太地」では、風情ある漁師町の町並みをたどり、古式捕鯨の史跡を訪ねる。潮風に吹かれて、のんびり歩こう。

活気溢れる生まぐろの競りを見学

名湯が湧く那智勝浦町は、え縄漁法による生まぐろの水揚げ量が日本有数の町でもある。それを実感できるのが、生まぐろ市場競り（入札方式）ガイドツアー（要予約）。早朝に競りが行われる勝浦地方卸売市場を、（社）那智勝浦観光機構の公認ガイドが詳しく案内するもので、ずらりと並んだまぐろは圧巻だ。

紀伊勝浦駅前のみやげ物店小倉家では、郷土玩具「熊野古式くじら舟」に注目。江戸時代の捕鯨舟をかたどっており、鳳凰や菊などの模様鮮やかな色彩で描かれ、店主がひとつずつ彩色している。

続いては、紀の松島めぐりを楽しむつた地へ向かう。紀の松島とは勝浦港周辺に点在する鶴島・兜島ラクダ岩など大小の島々の総称で、遊覧船が勝浦観光光機橋から出航。基本的なAコースは、太地くじら浜公園に寄港するので、今回はそこで下船。一帯にはくじらの博物館（↓P8）などの観光施設が集まっている。



生まぐろ市場競り（入札方式）ガイドツアー

●なまぐろいちばせり（にゅうさつほうしき）かいどつあー
☎0735-52-6153（那智勝浦観光機構）④東牟婁郡那智勝浦町築地7-8-2 ⑤JR紀伊勝浦駅から徒歩約5分 ⑥7時から約60分、催行日3日前までに要予約 ⑦毎週火曜日と市場がお休みの日（那智勝浦観光機構HPに掲載の市場カレンダーをご参照ください）⑧大人1名2500円、小学生以下1名1500円（その他、特別朝食やお寿司体験などの有料オプションがあります）【MAP】P22C3

マグロがずらり。「展望スペースSUNAGOOD（つなぐ）」からは申し込み不要で無料見学可

小倉家 ●おぐらや

☎0735-52-0650 ④東牟婁郡那智勝浦町築地4-2-4 ⑤JR紀伊勝浦駅から徒歩約7分30分〜18時30分 ⑥不定休 【MAP】P22C3



熊野古式くじら舟1320円〜。

紀の松島めぐり

●きのまつしまめぐり
☎0735-52-8188 ④東牟婁郡那智勝浦町勝浦 ⑤勝浦観光光機橋へはJR紀伊勝浦駅から徒歩約8分 ⑥勝浦観光光機橋発8時30分〜15時20分（変更の場合あり）⑦平日（荒天時などは休航）⑧Aコース中学生以上1800円、4歳以上900円（太地で下船する場合は、同じく1400円、700円）【MAP】P22C3

Aコースは所要55分（太地くじら浜公園までは40分）



ラクダ岩（写真手前）などの奇岩もある海を巡る

鯨のしっぽのモニュメントに迎えられる



太地くじら浜公園

●たいじくじらはまこうえん ④東牟婁郡太地町太地 ⑤バス停くじら館からすぐ【MAP】P22C4



平成24年に陸揚げされた捕鯨船、第一京丸

漁師町を散策し 絶景の岬を巡る

鯨骨鳥居 ●くじらぼねとい

④東牟婁郡太地町太地 ⑤バス停漁協前からすぐ【MAP】P22C4



井原西鶴著「日本永代蔵」に登場する話に着想を得て、1985年に建てられた（1996年、2019年に再建され、現在は3代目）

日本遺産 ジオパーク

岩門

●せきもん ④東牟婁郡太地町太地 ⑤バス停石門からすぐ【MAP】P22C4



門の形をした洞穴。現在も通り抜けられる



レトロな建物は国の登録有形文化財



バス停にも鯨が描かれている

ペンキ塗りの民家が連なる町を散策しよう

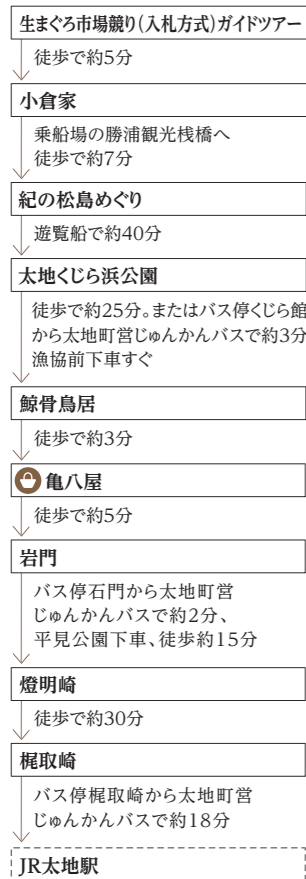
日本遺産 ジオパーク

燈明崎

●とうみょうざき →P11



コースチャート



灯台が立つ梶取崎。芝生が広がる園地には鯨の形をした供養碑もある（↓P3写真参照）



緑のトンネルが日差しを優しく遮る遊歩道

日本遺産 ジオパーク

梶取崎

●かんどりざき ④東牟婁郡太地町太地 ⑤バス停梶取崎からすぐ【MAP】P22C4

名物「てつめん餅」をおやつ・おみやげに 亀八屋 ●かめはちや

江戸時代末期、熊野詣の京都の僧に製法を伝授されたとも伝わる「てつめん餅」を今も手作り。軟らかい米粉の皮の中には、甘さあっさり自家製あんがたっぷり。早ければ午前中に売り切れるのでお早めに。



白とヨモギの2種あり、各1個150円

☎0735-59-2258 ④東牟婁郡太地町太地3383 ⑤バス停漁協前から徒歩3分 ⑥9時頃〜売切れ次第 ⑦月・水・木・金・日曜 【MAP】P22C4

レトロかわいい ペンキ塗り民家の町並み

公園から南へ歩くと、太地漁港に至る。このあたりが町の中心。漁協向かいの恵比須神社には漁の神が祀られ、鯨の骨で造った鳥居が立つ。周辺には住宅が密集した漁師町特有の町並みが残る。他と違うのは、格子を付けた日本家屋でも、淡い色のペンキで塗った建物が多いこと。かつて太地は北米移民や捕鯨船の乗員を多数輩出。その人々がペンキ塗りの文化を海外から持ち帰ったともいわれる。

亀八屋にも立ち寄ったら、洞穴の岩門を見学。門の内側に、古式捕鯨を創始した和田家の広大な屋敷があったと伝わる。さらに絶景の燈明崎（↓P11）を訪ね、続いて梶取崎まで遊歩道をたどろう。高台に続く道は散策にぴったり。ウパメガシなどが緑のトンネルを作り、随所から海が見える。梶取崎も燈明崎と同じく「山見台」だったところ。岬の突端の日本遺産「梶取崎狼煙場跡」まで行けば、熊野灘の絶景を望める。